

MACF 礼拝説教要旨

2022年1月16日

「シモンの大転換」

ルカによる福音書 5章

5:1 イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神の言葉を聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。

5:2 イエスは、二そうの舟が岸にあるのを御覧になった。漁師たちは、舟から上がって網を洗っていた。

5:3 そこでイエスは、そのうちの一そうであるシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろして舟から群衆に教え始められた。

5:4 話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われた。

5:5 シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。

5:6 そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった。

5:7 そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。

5:8 これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。

5:9 とれた魚にシモンも一緒にいた者も皆驚いたからである。

5:10 シモンの仲間、ゼベダイの子のヤコブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」

5:11 そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。

ゲネサレト湖というのは、ガリラヤ湖のことです。ゲネサレトとは湖の西側にある平原地帯の名で、ガリラヤ湖の呼び方としても使われていたようです。この湖は淡水湖で周囲が53キロ。かなり大きな湖です。中禅寺湖が周囲25キロですから、その倍の大きさということになります。

イエス様はそこで説教を聞くために集まってきた群衆にお話をするために舟を使われました。漁師シモンの舟でした。岸から少し漕ぎ出して、そこから座ってお話になったと書かれています。ガリラヤ湖・ゲネサレト湖はすり鉢状の湖ですから舟から話ても声は響いて届いたと言われていますが、それでも限界はあったらと思います。問題は群衆に聞こえたか、イエス様の喉が疲れなかったかということではありません。

イエス様の足下でみ言葉を聞いていたはずのシモンに焦点が集められています。

というのも、イエス様が説教の後、シモンに命令するのです。

「5:4 話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われた」

状況はシモンにとっては最悪でした。実は昨晚、一晩中漁をしましたが、全く魚が獲れなかったのです。そのシモンに向かって「漁をするように」という指示ですから、漁師のプロとしてはムツとしたことだろうと思います。

でも、考えてみれば背後にはイエス様の知恵があったに違いありません。シモンはイエス様の話を下で聞いていたはずですし、おそらくイエス様は何度かシモンと以前会ったことがあり、その都度話をしていたと思われる。そうでなければ、一晩中漁をして疲れている漁師が、そんなに簡単に舟を出してくれるとは思えません。

つまり、イエス様はご自分の説教の応答としてシモンに「漁をするように」と命じておられるのだと思います。

これはシモンにとって大きなチャレンジでした。

不承不承ではありますが、シモンはイエス様の言葉に従います。その空気がこの返事の仕方の中に表明されています。

5:4 話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい」と言われた。

5:5 シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。

しかし、このステップは大きな意味をもちました。

大漁だったからです。それも、かつてないほど、網が破れ、舟が沈むのではないかと思われるほどの大漁でした。

5:6 そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびただしい魚がかかり、網が破れそうになった。

5:7 そこで、もう一そうの舟にいる仲間に合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。

シモンは驚き、また、ある事柄に気づきます。それはイエスというお方がただものではないということ、すなわち、自分達とは違う、神によって遣わされた聖なる存在であるということに気づくのです。このお方こそ、神からの救い主だと気づくのです。本来は説教を聞いて気づくべきだったのかもしれませんが。でも、この出来事を通して、プロの漁師である自分にもできないようなことを引き起こしてしまうこの方こそ、偉大な救い主だと感じ取ったです。

ですから、彼は平伏して

5:8 これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」と言った。

とあります。

イエス様こそ聖なる救い主、自分は穢れた存在だと心にふかく気づき、礼拝するのです。ここまでで、この日のシモンの心の動きがよくわかります。

- 1) イエス様のリクエストで舟を出す
- 2) 身近でみ言葉を聞き、他人事としてみ言葉が通り過ぎていく
- 3) イエス様からの漁をせよとの命令に不承不承従ってみる
- 4) 大漁の出来事に驚き、イエス様が誰なのかに気付かされる
- 5) イエス様への恐れを抱き、イエス様を礼拝し、自らの汚れた存在を認める

ここまででも、大きな変化です。

イエス様を再発見しているような出来事です。

そして考えてみると、ここまでの心の動きや態度の変化は、私たちはみ言葉を聞いている中でも起こされているものです。私たちもここまでの出来事は何度か人生の中で経験していることが多いと思います。

ところがシモンに対してイエス様はさらに一歩進んでこう語ります。

「5:10 シモンの仲間、ゼベダイの子のヤコブもヨハネも同様だった。すると、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。」

5:11 そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。

今までは、社会的に身分も低く、誰からも特に尊敬されることもなく、社会の中ではやや卑屈に生きてきたシモンとその仲間たちに、イエス様は「今から後、あなたは人間を獲る漁師となる」と語り、ご自分の仲間に加えることを約束されたのです。

自分達は魚を獲る漁師でしたが、イエス様は人間を獲る漁師であることを彼らは悟っていたと思います。

シモンたちは魚を獲ってそれを売り生計を立てていたわけですが、イエス様は人間を獲り、神のもとに連れていく役割を持っていることを彼らは理解していたと思います。

人をみ言葉で捉え、神のいのちに触れさせ、神に新しい湖のなかで生かされるために、人を獲得するという役割はシモンたちにとってみれば、心の踊るような役割だったと思いますし、なんと言ってもイエス様と仲間になってそれができる喜びは言葉に表現できないものだったと思います。

ですから、かれらは後先を考えず、「5:11 そこで、彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った。」という行動に出たのです。そこには喜びと期待がありました。

自分達で何かができるなどはまったく考えていなかったと思います。

むしろ、イエス様に声をかけられ、イエス様の仲間であることの喜びに胸がいっぱいだったと思います。

何ができる、何かをやってあげようという気持ちで弟子になったわけではないのです。

むしろ、イエス様の仲間であることが嬉しくて従ったという感じの弟子。

その「仲間にしたことが嬉しくて集まっている集団」にこそ、言葉に表現できないような魅力が溢れているのです。

人間的には失敗だらけ、頓珍漢な議論ばかりしている弟子たちですが、心にある「イエスの仲間であることの喜び」は彼らの心を一杯にっていて、それだけで生きる力に溢れたのです。

そして、その喜びは今、あなたにも提供されています。

ご存じでしたか。

「MACF 礼拝映像」はこちらです。

<https://youtu.be/JudZcvNjBOc>